

No. 1138

両陛下、公式の記者会見

秋の日射しに包まれた皇居。10月31日、天皇 皇后両陛下は内外記者50人が出席した初の公式記者会見に臨まれました。

—15日間のアメリカご旅行で陛下にとって最も印象深かったことは何でしょうか。

天皇 いろいろな場所で深い印象は受けたが、おのおの特徴があってむつかしい。

—皇后さまはいかがでしょう。

皇后 どれもこれも懐かしくて……。いろいろ見せていただいて楽しゅうございました。

—戦争終結に際し広島に原子爆弾が投下されたことをどのように受けとめられましたか。

天皇 原子爆弾が投下されたことに対しては遺憾には思っていますが、こういう戦争中であることですから、どうも広島市民に対しては気の毒ではあるが、やむを得ないことと私は思っています。

—不幸な時期に親や子を亡くした国民に一言。

天皇 そのことについては、毎年8月15日に、私は胸がいたむのを覚えるという言葉述べています。今これらの非常に苦しい人たちが日本の発展に寄与したことはうれしく私は感じております。

自衛隊観閲式

創立21周年を記念する自衛隊観閲式が11月2日、午前10時から埼玉県朝霞市の陸上自衛隊朝霞訓練場で行われた。

朝霞会場での観閲式は3回目、過去2度とも雨にたたられたがことしはまずまずの天候に恵まれた。式典では三木首相が観閲官として初めて出席。栄誉礼を受け、つづいて、いささか緊張ぎみで巡閲。

三木首相訓示「自衛隊は内外の批判を受けたが諸君はその抵抗の決意の象徴だ」。三木首相の訓示の後、陸上自衛隊音楽隊を先頭に防衛大学生、普通科部隊、空挺部隊、婦人自衛官など約5,000人が力強くパレード空からは対潜しょう戒機が観閲飛行徒歩部隊に続いて車輛部隊の行進。対空レーダー、七四式戦車など陸上自衛隊の最新鋭の兵器が続々と登場した。

自衛隊は警察予備隊として25年、昭和32年に始まる防衛力整備計画によって内外の違憲論争をよそに防衛力としての骨格を整えてきた。

国防支出はイタリア、カナダを抜き世界第10位。規模はともかく最も近代的な防衛力と云われている。しかし戦後30年の今、経済成長の見通し難という面から曲りかどに立っている。坂田防衛庁長官の「基盤防衛力」という構想をいかに生かすかが今後の課題となろう。